

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証

多分野での高・専連携を実現する一貫型職業教育プログラムの開発・実証

成 果 報 告 書

2024年3月

一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会

目次

はじめに	3
第 1 章 事業概要	4
第 1 節 事業の趣旨・目的	4
第 2 節 実施体制	5
第 4 節 事業内容概説	12
第 1 項 実施委員会・各分科会・個別協議の開催	15
第 2 項 開発	15
第 3 項 実証	16
第 4 項 教員研修	17
第 2 章 実施委員会・各分科会の開催	18
第 1 節 実施委員会	18
第 2 節 各分科会の開催	19
第 3 章 開発	20
第 1 節 カリキュラム設計	20
第 1 項 高校 1 年生用カリキュラム	20
1-1 ビジネス分野	20
1-2 自動車整備分野	21
1-3 グローバル分野（普通科）	22
第 2 項 高校 2 年生用カリキュラム	23
2-1 ビジネス分野	23
2-2 自動車整備分野	23
2-3 グローバル分野（普通科）	24
2-4 情報技術分野	25
第 3 項 高校 3 年生用カリキュラム	27
第 2 節 教材開発	28

第 1 項 「高校 1 年生用」モデル教材の開発	28
1-1 ビジネス分野	28
1-2 自動車整備分野	29
1-3 グローバル分野	29
第 2 項 e ラーニング教材の追加開発と実装	30
第 3 節 一貫型職業教育プラットフォームの整備	32
第 4 章 実証講座	34
第 1 節 実証概要.....	34
第 2 節 ビジネス分野.....	36
第 3 節 自動車整備分野	38
第 4 節 グローバル分野	40
第 5 節 情報技術分野	42
第 6 節 プレ実証	44
第 7 節 実証講座のまとめ.....	45
第 5 章 教員研修.....	47
第 1 節 教員研修の実施	47
第 2 節 追加開発.....	48
第 3 節 教員用ガイドのプロトタイプ版.....	49
第 6 章 今年度における活動項目のまとめ	50

はじめに

本報告書は、沖縄県内の専門学校が企業と連携して、高等学校のキャリア教育を支援する実証授業実施と教材開発の成果をまとめたものである。

本事業は、専門学校や企業が高校と連携し、高校生が将来の進路選択に役立つ実践的なキャリア教育を提供することを目的としている。実証講座と並行して、キャリア教育教材やキャリア教育支援基盤システムの開発も行っている。今年度は、高校1、2年生を対象に、専門学校5校、企業10社、工業科・商業科・普通科高等学校3校が連携して実証講座を実施してきた。

実証講座では、高等学校のキャリア教育関連の授業に、専門学校教員や企業などの職業人がチームティーチング形態で支援し、職業人講話、グループワーク、実習、現場見学・体験、フィールドワークなどの様々な形式で授業を実施してきた。

その結果、昨年度と同様に計画以上の実施実績をあげることができ、高校生や高校教員からの評価も良好であった。

この成功には、専門学校と高校が高い頻度で密接にコミュニケーションをとりながら授業を展開してきたことが大きな要因であると考えている。

また、実践的なキャリア教育を提供するための教材やシステムを開発することで、より実践的な授業の提供を実現できている。

本報告書では、これらの取り組みによって高校生が職業に関するキャリアの理解を深め、将来の進路選択に役立っていることを報告する。

この様な想定を超える実績は、高校生と高校教員からのアンケートやヒアリングによる評価結果から判るが、一方で、支援する側の専門学校と企業の労力の大きさは依然として課題となっている。

これまでの実績をもとに、今後は更に多くの高校から実施を希望されることも予想される。そのため、今後もより効率的な支援方法の策定や、専門学校や企業が担う役割の明確化が求められる。

本報告書では、今年度の成果や課題について報告し、今後の取り組みについても考察している。そして、今後3年間に渡る事業の完了後には、専門学校、企業、高等学校等が協力して実現したキャリア教育支援の実践モデルとして、今後のキャリア教育の充実に向けた示唆を与えるものとなることを期待する。

第1章 事業概要

第1節 事業の趣旨・目的

本事業では、沖縄県内の専門学校4校が各校の専門分野「商業実務／ビジネス」「工業／情報技術」「工業／自動車整備」「普通／グローバル」と関連する分野の専門高校等と連携し、トータル5年間の一貫型職業教育プログラムの開発と実証による「沖縄モデル」の構築に取り組む。

ここでは学生の中途退学や就職後の中途退社の回避等を目的とし、その主な原因となる職業・職種の理解不足と学業不振について高等学校および専門学校の連携によってアプローチする。前者の職業・職種の理解不足については、高校の段階から専門学校が様々な職業・職種の仕事内容等を教育することで改善できる。また、後者の学業不振については、高校段階での学びの不十分さに対して専門学校が職業・職種で必要となる知識やスキルの教育を高等学校と協力して実施することで改善が図れる。

これらの方策によって、高等学校段階において専門学校での学習に必要な基礎を確立する。さらにこれを土台に、専門学校進学後は各専門分野の応用・実践を身につけると同時に、専門職業人としての人間力やプロ意識を高める教育を実施していく。

本教育プログラムは、4分野の専門学校と連携する高等学校が、それぞれの分野に特化した内容と4校が共同で開発する高校1年次の共通的なキャリア教育などの分野横断的な内容で構成する。こうした高・専連携による一貫型職業教育の実施を通じて、地域社会に貢献できる専門職業人の育成を強化する。

第2節 実施体制

事業実施体制として以下に示す構成の「沖専研・高専連携コンソーシアム」を立ち上げることによって本事業を推進する。

●実施委員会

一般社団法人沖縄専門人材開発研究会を代表機関とする実施委員会を本事業の推進組織として編成する。構成機関は専門学校、高等学校、行政機関、企業、業界団体とする。実施委員会は、「事業計画の立案」「実施内容等の重要事項の決定」「事業活動全般のマネジメント」「成果の取りまとめ」と「普及促進」等の役割を担う。実施委員会の下部機関として分科会を置く。

●分科会

実施委員会の構成機関である専門学校と高校の組み合わせの専門分野ごとに分科会を編成する。

各分科会はそれぞれの専門分野の特性等に応じた一貫型職業教育プログラムの開発・実施に係る活動を展開する。また、専門分野を横断する共通的な内容も含まれるため、相互に連携・協働する。

●コーディネーター

コーディネーターは、事業の全体調整や進捗管理、高校と専門学校、企業、行政機関などとの橋渡し、広報を事務局と連携しながら担当する。

●事務局

事務局は、実施委員会、分科会、コーディネーターの運営補助をはじめとする事業活動全体の事務作業を担当する。

本事業における構成機関は以下の通りである。

(1) 高等学校

名称・学科	役割等	都道府県名
1 沖縄県立八重山商工高等学校・商業科	実証	沖縄県
2 沖縄県立石川高等学校・普通科	実証	沖縄県
3 沖縄県立美来工科高等学校・自動車工学科	実証	沖縄県
4 沖縄県立中部商業高校・情報ビジネス科	実証	沖縄県

(2) 行政機関

名称	役割等	都道府県名
1 沖縄県教育庁県立学校教育課	連携協力支援・評価	沖縄県

(3) 専門学校

名称	役割等	都道府県名
1 専門学校那覇日経ビジネス	開発・実証	沖縄県
2 専門学校 I T カレッジ沖縄	開発・実証	沖縄県
3 専修学校パシフィックテクノカレッジ	開発・実証	沖縄県
4 専門学校琉美インターナショナルビューティカレッジ	開発・実証	沖縄県
5 琉球調理製菓専門学校	開発・実証	沖縄県

(4) 企業

名称	役割等	都道府県名
1 一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会	事業統括	沖縄県
2 株式会社沖縄債権回収サービス	開発・実証	沖縄県
3 株式会社オーシーシー	開発・実証	沖縄県
4 沖縄トヨタ自動車株式会社	開発・実証	沖縄県
5 沖縄 UDS 株式会社	開発・実証	沖縄県
6 株式会社日建ハウジング	開発・実証	沖縄県
7 一般社団法人 沖縄県専修学校各種学校協会	実証評価	沖縄県

(5) コーディネーター

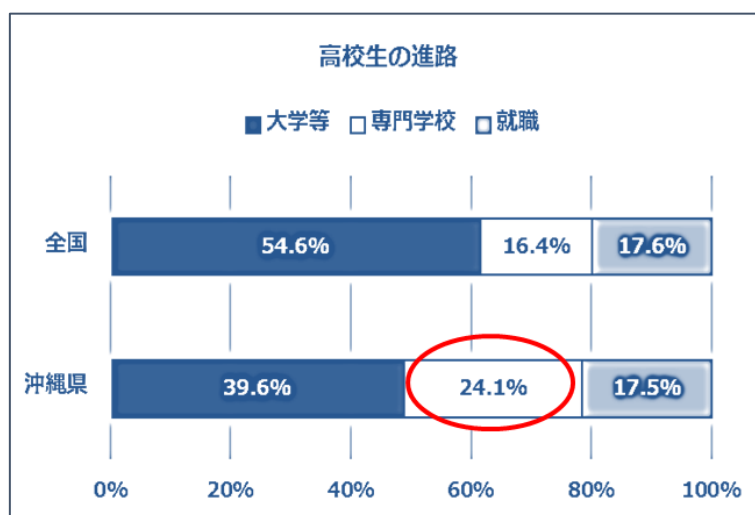
名称		所属・職名	都道府県名
1	盛山 泰秀	専門学校日経ビジネス・学校長 (沖縄県立高校元校長)	沖縄県
2	川畑 三矢	専門学校那覇日経ビジネス・学校長 (沖縄県立高校元校長)	沖縄県

第3節 事業背景

●専門学校への進学者が多い沖縄県

沖縄県では、高校卒業後の進路として専門学校を選択する生徒が多い（下グラフ）。具体的には、専門学校進学率は24.1%で、これは全国平均の16.4%よりも7.7ポイント高く、都道府県別でも新潟県の26.0%に次いで2番目に多い。

一方、大学等への進学率は約4割だが、その半数近くが県外の大学等に進み多くが首都圏や関西圏等の県外で就職していく。これに対して、専門学校に進学する生徒は県内で就職するケースが多い。



●横ばいで推移する県内の高等学校卒業生

（若い世代の育成が県の発展に向けた重要課題）

少子高齢化が加速している中、沖縄県は全国でも数少ない人口増加県であり、国内で最も65歳以上の高齢者人口が少なく、14歳以下の年少人口の割合が高い県である。

沖縄県企画部の推計によれば、2016年の高校卒業生は14,234人で、その人数は2033年までほぼ横ばいで推移するものと見込まれている。このような人口動態予測について、県が策定した「沖縄21世紀ビジョン基本計画」の中間評価では「沖縄県は潜在的な成長性を有しており、今後の沖縄の発展にとって若い世代の育成は極めて重要」と指摘している。

●専門学校が果たす役割の増大 職業教育のさらなる充実化へ

今後 20 年近くに亘って若い世代が横ばいで推移していく中、県内の専門学校へ進学し卒業後も県内で就職していく者が多いという現状を踏まえると、専門学校が県・地域に果たす役割は大きく、その重要性を増していくものと考えられる。地域の発展に貢献できる人材を育成する高等教育機関として、職業教育のさらなる充実化の取り組みは重大な責務である。

●専門学校教育の充実化に向けた課題

専門学校教育のさらなる充実化を図る上での課題が「中途退学の回避」と「就職後の早期離職の回避」である。特定の職業・職種に就くことを希望して専門学校に入学してくる生徒が、専門知識・スキルを身につけ、就職していくという学修と就職のプロセスの途中でリタイアすることなく、継続できることを支援する方策の徹底が必要である。

中途退学・早期離職する理由・原因は様々である。職業・職種の仕事内容やその専門分野を適切に理解・認識できていない「職業・職種の理解不足」、教育課程での学習についていけないという「学業不振」、その他、経済的な理由や健康上の理由などがある。これらのうち「職業・職種の理解不足」と「学業不振」については、高校と専門学校、企業の有機的連携というアプローチによって改善や解消に向けた効果があると考えられる。

●「職業・職種の理解不足」への対応方策

専門学校での学習は、特定の職業・職種に就くことを目的としているため、入学生の多くは目的意識や就職意識が比較的明確である。しかしながら、社会人経験がないこともあって、職業・職種に対して理解不足であったり、誤解を抱いたりしたまま入学してくるケースも少なくない。職業・職種を表向きの面だけで判断し、裏側に隠れているプロとしての大変さやそれゆえの面白さにまで理解や想像が及ばないことがある。高校生にとって身近に感じられる職業・職種であっても理解不足や誤解は生じることもある。

このような理解不足や誤解の解消に向けて、高校の早期の段階から、専門学校が様々な職業・職種の仕事内容やその魅力、大変さと面白さを分かりやすく伝えていくことは極めて有効である。もちろん、高校でも進路指導やキャリア

教育の取り組みが様々な工夫によって実施されているが、これに職業教育を旨とする専門学校が協力することで、その内容はより一層充実したものとなる。

生徒の職業・職種に対する理解のミスマッチの改善につながるはずである。

●「学業不振」への対応方策

専門学校での学びは、高校3年間での学びを土台として積み上げていく部分もある。専門学校に入学してから学業不振となってしまうのは、高校での学びの基礎がしっかりと構築されていないことによるケースが多々見受けられる。

例えば、情報技術系の専門学校では、高校で履修する数学の一部が土台となる。

また、美容の専門学校の場合は化学が必須となっているなど、高校の授業の一部と専門学校の専門的な学習には接点があるが、高校での勉強がおろそかであると、それが要因となって学業不振になってしまうこともある。

このような現状に対して、専門学校がその職業・職種に必要な科目の補習を支援するという方策がある。科目全体を学び直すのではなく、必要な部分を中心に扱い「職業・職種のための基礎学力」を養う。これにより、専門学校での学習を支える基盤を形成し、学業不振の要因の1つを取り払う。

●「職業・職種の理解不足」「学業不振」への対応策は専門学校教育の質向上にも有効

上記の方策は、職業・職種の理解不足と学業不振による中途退学を回避することが直接の目的である。しかしそれだけでなく、こうした高等学校と専門学校、そして企業が連携した職業教育の実践は、生徒の職業意識や専門基礎学力の向上という効果をもたらすことから、結果として専門学校教育の質の向上という効果にもつながっていく。当然、受け入れる専門学校は、生徒の高校段階での学習成果を土台に、それをさらに発展させる職業教育を展開できることになる。

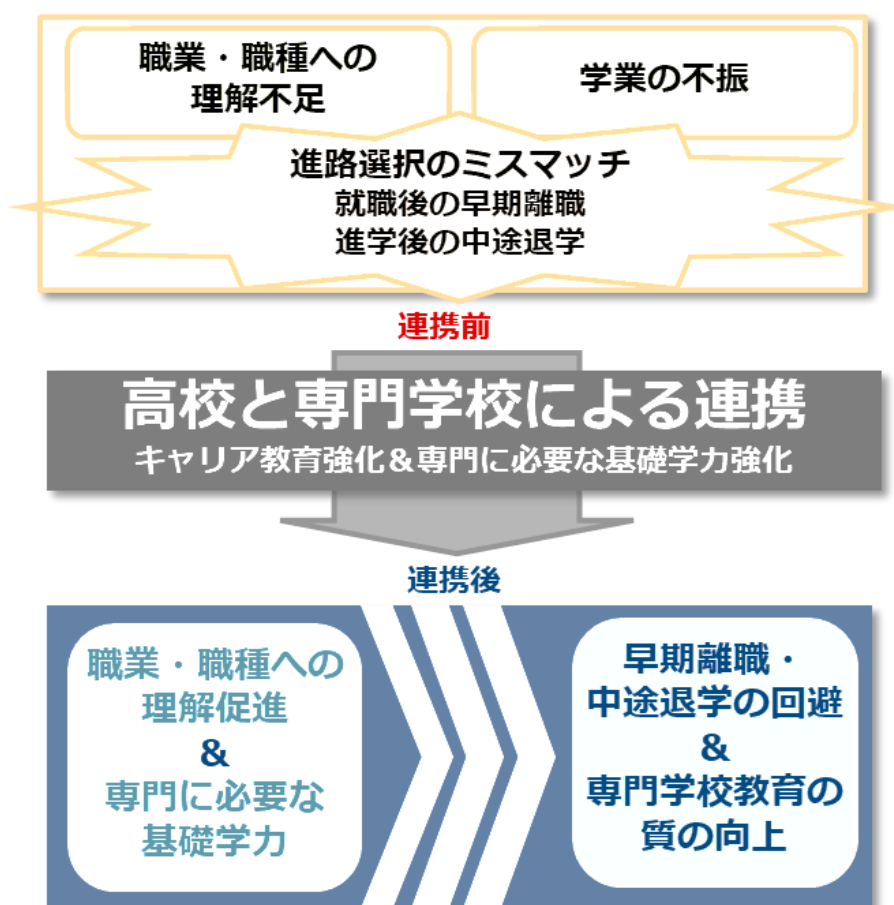
●高・専の有機的連携による課題の解決 -沖縄県のこれまでの高・専連携の実績を基盤として-

今後、専門学校が地域社会の発展に貢献できる人材を育成していくためには、高等学校と密に連携した3年+2年の一貫型職業教育を実践していく必要

がある。専門学校進学率が高い沖縄県では、多くの専門学校が「高校向けの出前授業メニュー」を取り揃えるなど、これまでに高校と連携してきた様々な実績があり、良好な信頼関係が構築されている。これを基盤とすることで高・専の有機的な連携に基づく実効性の高い一貫型職業教育プログラムの実現が強く見込まれる。

●多分野での高・専連携の意義 -総合的で柔軟な対応ができる可能性を増大する-

本会の本事業で連携している4分野の専門学校は、それぞれ連携する高等学校と分野特化した教育プログラムを開発・実証する。また、高校1年次のキャリア教育や専門学校でのプロフェッショナル教育などでの共通性の高い部分については4校がそれぞれの特性を生かし協力して事業を推進する。多分野での高等学校と専門学校の連携は、高校生が柔軟に進路を選択できる余地を拡大することになる。また、さらに多くの他分野の参画も容易にできる受け皿としてのモデル構築もしやすい。



第4節 事業内容概説

本事業では、専門高校と専門学校の連携による5年間の一貫型職業教育プログラムを開発・実施する。その取組は、沖縄専門人材開発研究会の構成機関である専門学校4校が県内の高等学校、企業、行政機関との連携の下で推進していく。

専門学校4校の専門分野は「ビジネス」「情報技術」「自動車整備」「グローバル」で、各専門分野と関連する専門高校や普通高校等と連携していく。

専門分野別に連携することにより、各専門分野の特性や学習内容、目標とする人材像などに応じたカリキュラム等の在り方を検証し、高等学校での「専門基礎」から専門学校での「応用・実践」までを系統的に学修する一貫型職業教育プログラムの実現とそれを実施するための一貫型職業教育支援プラットフォームを整備していく。

●一貫型職業教育プログラム

高校専門学科段階では、専門基礎として以下の図表に示す学習テーマと手法に沿った教育プログラム（カリキュラムや教材等）を各学年で段階的に提供する。

この教育プログラムは、専門学校での学びを支える基盤を形成していく。

「総合的な学習の時間」や職業に関する教育を行っている授業科目、授業時間外などを候補とし、各校のカリキュラムと運営状況や要求などに応じて実施科目を決定する。

専門学校段階では、専門知識・技術を学ぶ正規カリキュラムに加えて、専門職業人としての人間力や職業意識等を培う教育を実施する。

高等学校段階	1年生	職業キャリア学習【分野共通・横断】 ◎概要：様々な分野の職業・職種や社会との関わり、働くことの意味など職業キャリアの基礎を理解し、自分の将来設計などについて考える。 ◎手法：講義、ワークショップ、卒業生・企業人らによる講演等。 ◎狙い：将来の職業選択に向けて、 職業に関する基礎知識や職業意識や社会人 となるための心構えを涵養する。また 能動的に学習する姿勢 を育む。
	2年生	基礎学力と専門知識・技術【分野別】 ◎概要：高校で学ぶ科目内容のうち、専門学校での学習の土台となる単元やテーマについて学習する。さらに専門分野の資格・検定に対応した内容を学習し取得をめざす。 ◎手法：講義、問題解決型学習 P B L、資格・検定取得のための e ラーニング等。 ◎狙い：専門学校進学後に必要となる 基礎学力 、基本的な 専門知識・技術 を修得する。また 能動的に学習する姿勢 を育む。
	3年生	専門職業人の基礎【分野別】 ◎概要：専門学校入学後の学習の前段となる専門知識・技術について学習する。2年次に続けて資格・検定の取得をめざす。 ◎手法：講義、専門学校生との協働学習、卒業生・企業人らとの交流、e ラーニング等。 ◎狙い：専門学校への進学を見据えて、進学後の学習が円滑に進むように高校段階で 学んでおくべき専門性 を着実に身につける。また 能動的に学習する姿勢 を育む。
専門学校段階	1年生	専門職業人としての人間力【分野別、共通】 ◎概要：コミュニケーションやリーダーシップなど専門職業人として仕事を進める上で必要な対人関係スキルを理解し、その実践力を獲得する。 ◎手法：ケーススタディ、問題解決型学習 P B L、デュアル教育等 ◎狙い：専門職業人としてキャリアアップしていく際の基盤となる 人間力・社会人の基礎的能力 を身につける。
	2年生	専門職業人としてのプロフェッショナリズム【分野別、共通】 ◎概要：専門職業人としての心構え、自己管理、学び続ける力、職業倫理、プロフェッショナリズムなどについて考え、その涵養を図る。 ◎手法：ケーススタディ、問題解決型学習 P B L等、デュアル教育。 ◎狙い：専門職業人としてキャリアアップしていく際の基盤となる プロフェッショナリズム に対する意識を高める。

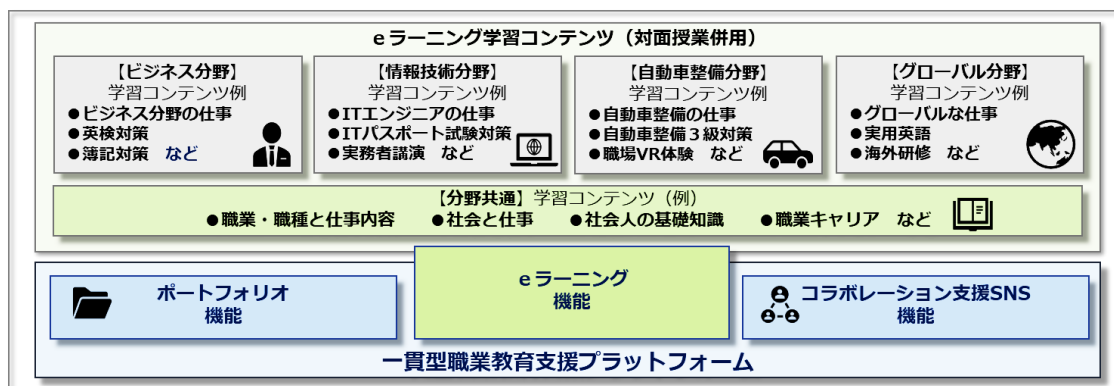
●一貫型職業教育支援プラットフォーム

一貫型職業教育プログラムを機能的で柔軟性をもって実施するためには、生徒・学生、教員・実務者の協働を支援する一貫型職業教育支援プラットフォームが必要となる。eラーニング、ポートフォリオ、SNSなどで構成したシステム環境を整備し教育プログラムのコンテンツを搭載する。

●一貫型職業教育支援プラットフォームの構築と運用

一貫型職業教育プログラムの実施を支援するプラットフォームをクラウド環境上に構築する。その目的のひとつは、5年間の一貫した学びを継続し着実な学習成果に到達できるように、教員による個別対応・指導を充実化させること

である。さらに、本事業の学習コンテンツを生徒や学生が柔軟に利用できるようにすることである。



●機能・活用方法

① eラーニング機能と学習コンテンツ

対面授業のテキストに加えて、分野共通・専門分野別に学習コンテンツ（eラーニング教材）を提供する。資格対策や企業人等による講演映像（ライブ型・オンデマンド型）などのコンテンツを用意する。また、VRによる疑似体験など最新テクノロジーを活用したコンテンツも整備する。これらのコンテンツは予習・復習の自己学習だけでなく、一部は対面授業でも活用する。

②ポートフォリオ機能

生徒・学生の学習成果物や学習コンテンツの学習進捗データ等を蓄積・管理し、教員が個別指導を行う際にその判断材料を提供する。高校の教員と専門学校の教員がポートフォリオ機能を介することで、生徒・学生に対する一貫した個別指導をサポートする。また、生徒・学生同士が相互評価などを行うことによって、学習成果を高めることにも利用される。

③コラボレーション支援 SNS 機能

高校の教員、専門学校の教員、企業等の実務者らが職業教育の内容や指導目標などについて、意見交換や情報共有を行う。ここでのコラボレーションを通じて、教員の職業教育力の向上を図っていく。

第5節 今年度における取り組み

第1項 実施委員会・各分科会・個別協議の開催

沖縄専門人材開発研究会、専門学校、高等学校、企業、業界団体等から編成される実施委員会を開催している。

また、実施委員会の下部機関として、主に専門学校、高等学校の教員を中心とした分科会を実施している。

分科会については、「ビジネス（IT）分野分科会」「自動車整備分野分科会」「グローバル分野分科会」「情報技術分野分科会」の合計4つを実施している。開催回数については、各分科会の状況に応じて開催している。

第2項 開発

今年度の開発対象は、大きく分けて4系統である。

まず、カリキュラムについては、今年度から実証講座の対象学年である高校1年生用、高校2年生用および次年度の実施対象となる高校3年生について各分野において開発した。

教材開発では、事業期間終了後も見据え、昨年度および今年度各分科会のもと実施した実証講座において、それぞれの専門学校や企業の担当者が授業で活用するために作成した教材および昨年度開発したキャリア教育教材をもとに、モデル教材の開発を行った。また、昨年度開発した教材「IT分野の仕事」「自動車整備の仕事」「グローバル人材」の3分野の高校1年生用の教材の追加開発として、動画に関する問題の作成も行った。

さらに、一貫型職業教育プラットフォームの整備として、昨年度構築したシステムについて、高校1～3年生にかけて継続して活用できる仕組みやeラーニング動画を視聴可能とする整備を行った。

第3項 実証

今年度の実証授業は、「ビジネス(IT)分野」「自動車整備分野」「グローバル分野」「情報技術」の4分野で実施してきた。年間を通して4分野の高校の1年生と2年生を対象に総計217コマを実施した。

「ビジネス(IT)分野」では、県立八重山商工高校において、高校1年生が「ビジネス基礎」、高校2年生では「ネットワーク活用」で連携授業を実施した。専門学校那覇日経ビジネスや専門学校ITカレッジ沖縄と連携して実施した。また、「第2章 ビジネスとコミュニケーション」においては、石垣島出身で本土でもアナウンサーとして活躍した講師がビジネスマナーに関する実践も踏まえた授業を行った。「第4章 さまざまなビジネス」では、教科書を使って各業界のビジネスについて学習した後に、島内の各業界で働いている実務者を講師として招き、さらに理解度を深められる授業を実施した。

「自動車整備分野」では、県立美来工科高等学校にて高校1、2年生の「自動車工学」「実習」の時間にて、専修学校パシフィックテクノカレッジおよび沖縄トヨタ株式会社が協同して連携授業を実施した。「自動車工学」では、自動車に関連した仕事や自動車整備の役割などのキャリア教育を行い、「実習」では、沖縄トヨタ株式会社の支援の下、1年生は実車や高価なシミュレーターを用意し、通常の授業で学習していることが、実際にどれだけ重要であるかということや、自動車にはどれだけ魅力があるかなどを感じてもらうための授業を実施した。2年生では、実際に沖縄トヨタ自動車株式会社の各部門に訪問し、見学や体験学習を実施した。

「グローバル分野」では、県立石川高校にて高校1、2年生全員（各4クラス）を対象に、1年生では「情報Ⅰ」「総合的な探究の時間」の時間にて連携授業を行った。「情報Ⅰ」に即するテーマを基本として、コミュニケーションや表現方法、情報技術の活用した動画制作、さらにはIT分野をはじめとして、様々な分野の企業人を招いて職業人講話を行った。2年生では、「総合的な探究の時間」を活用して生徒自身が関心を持った企業への訪問を通じて、職業意識の深化に関する授業を実施した。

これらに関する具体的な活動実績については、第4章にて紹介する。

第4項 教員研修

教員研修では、昨年度開発した動画教材を事業関係者に視聴していただき、評価とともに教員研修に関するアンケートも行った。そのうえで、追加開発を実施した。追加開発については、今年度開発した高校1年生用モデル教材のガイドに相当する内容の作成である。

最後に、高専連携事業を実施していくうえでの参考資料となる「教員用ガイド」の開発を行った。今年度はプロトタイプ版であり、次年度以降において評価を行い、改善していく予定である。

第2章 実施委員会・各分科会の開催

第1節 実施委員会

今年度、実施委員会は計3回開催した。実施委員会には、本事業におけるコーディネーターをはじめとして、高等学校の管理職、専門学校や企業の経営層、行政等などが参画し、事業全体のマネジメントや各分科会の実施状況の確認等を行ってきた。

【実施委員会実施スケジュール】

回数	日時	内容
第1回	2023年7月19日	<ul style="list-style-type: none">・事務局挨拶・委員紹介・各分科会における連携授業実施報告・今年度事業スケジュール説明・意見交換・質疑応答
第2回	2022年12月5日	<ul style="list-style-type: none">・委員長挨拶・各分科会における連携授業実施報告・今年度の開発教材、プラットフォームの現状報告・今年度事業スケジュール説明・意見交換
第3回	2023年2月13日	<ul style="list-style-type: none">・委員長挨拶・今年度事業報告・次年度以降の取組説明・意見交換

第2節 各分科会の開催

今年度は、昨年度から継続的に開催している「ビジネス(IT)分野」「自動車整備分野」「グローバル分野」「情報技術分野」。以下、各分科会の活動実績について紹介する。

	ビジネス (IT) 分野分科会	自動車整備 分野分科会	グローバル 分野分科会	情報技術 分野分科会
開催回数 (事業期間 外含む)	7回	7回	4回	5回
連携授業 実施主体校	沖縄県立八重山 商工高校	沖縄県立美来工 科高校	沖縄県立石川高 校	沖縄県立中部商 業高校
連携授業 対象科目	「ビジネス基 礎」 「ソフトウェア 活用」	「自動車工学」 「実習」	「情報Ⅰ」 「総合的な探究 の時間」	「総合実践」
連携する 専門学校	・専門学校那覇 日経ビジネス ・専門学校 IT カレッジ沖縄	・専修学校パシ フィックテクノ カレッジ	・専門学校日経 ビジネス ・琉美インター ナショナルビュ ーティカレッジ ・専門学校 IT カレッジ沖縄 ・琉球調理製菓 専門学校	・専門学校 IT カレッジ沖縄
協議概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実証講座に関する内容やスケジュールの調整 ・実証講座時の様子の確認 			

第3章 開発

第1節 カリキュラム設計

今年度のカリキュラム設計は、今年度連携授業を実施した高校1年生、高校2年生および来年度実施予定となる高校3年生について「ビジネス(IT)分野」「自動車整備士分野」「グローバル分野（普通科）」「情報技術分野」の4分野で行った。

第1項 高校1年生用カリキュラム

高校1年生用のカリキュラムについては、昨年度までのカリキュラム設計において実施した「高等学校実態調査」結果および今年度に連携授業対象となった科目に関する専門学校や企業などが連携した取り組みの事例等を参考に、主に分科会で高等学校、専門学校および企業が協議を行い策定している。

1-1 ビジネス分野

ビジネス分科会を通して設計してきた高校1年生用のカリキュラムは、「ビジネス基礎」（実教出版）の単元に沿って、専門学校や企業が支援可能な単元や章などにおいて実際に運用しつつ、カリキュラムの調整および具体化に取り組んできた。ビジネス分野における連携授業のカリキュラムは下表の通りである。

【ビジネス分野の高校1年生カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	オリエンテーション	授業紹介／アイスブレイク	2
②	ビジネスマナー	講義・ワーク・実践	2
③	職業人講話	事前調べ学習／講話／振り返り ※Webデザイン、SE、観光、アナウンサー	10
④	マーケティング	講義・ワーク	1

⑤	フィールドワーク	事前確認／フィールドワーク／振り返り	6
総コマ数			21

1-2 自動車整備分野

自動車整備分野では、今年度の連携授業における高校1年生用のカリキュラムは、「自動車工学」と「実習」の2科目を対象にした。

自動車整備分科会にて専門学校および企業側がプログラム案を提案しながら調整を行ってきた。自動車整備分野においては、「自動車工学」と「実習」の2科目で連携授業実施のためカリキュラムも2系統に分かれている。

【「実習」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	車の魅力・楽しさ	【自動車とは】： 実車を活用した車の進化、車の駆動方式の理解	3
②		【運転の楽しさ】： シュミレーター／カート等を活用して体感	5
③		【車、電気の基本／これからの車】： 電動ラジコンを使用した電気自動車の基本理解 実車を活用した自動運転や駐車アシスト等の理解	5
総コマ数			13

【「実習」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	自動車整備士とは (職業理解)	【自動車の仕事】 【自動車整備士の役割】	1
②		【自動車整備をめぐる社会の動き】 【自動車整備業界の動向】	1
総コマ数			2

1-3 グローバル分野（普通科）

グローバル分野においては、普通科の科目「情報Ⅰ」および「総合的な探究の時間」で連携事業を実施し、その内容と整合性の良いキャリア教育関係のカリキュラムとした。以下が実証や分科会を通して設計したカリキュラムである。

【「情報Ⅰ」「総合的な探究の時間」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	キャリア基礎	オリエンテーション／コミュニケーション／表現方法／マナー	14
②	職業人講話	事前調べ学習／職業人講話／振り返り	15
③	映像制作	コンセプト決め／撮影・素材収集／映像編集／発表会	40
④	振り返り	年間通しての振り返り	2
総コマ数			71

第2項 高校2年生用カリキュラム

高校2年生用のカリキュラム設計については、主に昨年度の後期から分科会を通して、協議を開始した。高等学校のスケジュール等の関係から、連携授業を実施しながら分科会や個別協議を行い策定している。

2-1 ビジネス分野

ビジネス分野においては、連携授業科目は「ソフトウェア活用」となった。その中の「第3章 表計算ソフトウェアの活用」で合計10時間の連携授業計画である。主な項目としては、情報収集の仕方や集計方法、分析方法などにおいて、高校側の教員と共に授業を実施する形式で構成した。

【「ソフトウェア」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	表計算ソフトウェアの活用	主に Excel を活用したグループ学習。 データ収集～分析～グラフの作成～プレゼンテーション。	10
②	専門学校生講話	専門学校生によるプレゼンテーション (高校時代の進路選択や現在の専門学校生活について)	1
③	映像制作	映像の撮影方法の学習～撮影～動画等の編集。	2
			総コマ数 13

2-2 自動車整備分野

自動車整備分野では、分科会で高等学校や専門学校、企業の協議の結果、1年生と同様に自動車整備系の科目において「座学」と「実習」の連携授業を実施する形式とした。

【「実習」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	自動車整備業界についての理解（現場）	【自動車整備】： 予約・受付、車検、故障診断の現場見学	5
②		【部品共販、L&F（産業車両）】： 部品の供給、産業車両の販売・整備の現場見学	5
③		【自動車板金】： 板金の現場見学	5
総コマ数			15

【「実習」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	自動車整備士の職業意識	【社会的責任を担う自動車整備士】	1
②	自動車整備士に必要な能力	【専門職としての自動車整備士】 【自動車整備士の視点】	1
総コマ数			2

2-3 グローバル分野（普通科）

グローバル分野においては、昨年度の連携授業の様子から、学校側の協力もえられ、2年生の連携授業科目は「総合的な探究の時間」となった。1年次に「情報Ⅰ」で実施してきた様々な職業への理解からの系統的なつながりを意識し、「職業理解の深化」をテーマとした。具体的には、関心分野別に5グループを編成し、各分野の企業への訪問およびグループワーク、成果発表会を実施する構成である。

分科会を通して設計したカリキュラムは以下の通りである。

【「総合的な探究の時間」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	チーム&テーマ 決め	・チームで企業訪問を通したテーマを決定	1
②	マナー教育	・企業訪問に関するマナー	1
③	事前調べ学習	・訪問先に関する事前調べ学習	1
④	企業訪問	・関心分野の企業に訪問	5
⑤	振り返り①	・企業訪問振り返り	2
⑥	振り返り②	・まとめシート作成	2
⑦	発表会	・企業訪問を通じて学習した内容を発表	2
総コマ数			14

2-4 情報技術分野

情報技術分野においては、昨年度後半から高校・専門学校・コーディネーターを中心に協議をおこない、2年生を対象に「総合実践」において実施する運びとなった。職業人講話などの企業との連携に加えて、情報の分析やプレゼンテーションに関して専門学校が支援する構成である。

次項にカリキュラムを提示する。

【「総合実践」における連携授業カリキュラム】

	テーマ	内容	コマ
①	職業人講話	IT系企業による講話／Excelを活用したワークショップ	4
②	データ分析	身近な課題解決に向けたグループワーク。課題に関する意識調査を実施し集計する。そのうえでExcelを活用して分析し、課題解決に向けたプレゼンテーションを行う。	60
③	職業人講話	将来の進路選択（高校3年生での選択科目）につながる講話。 ※県内複数のIT系企業に調整中	2
総コマ数			66

第3項 高校3年生用カリキュラム

令和6年度に実施する一貫型職業教育プログラムとして、次年度に3年生に進学する生徒を対象とするカリキュラムの設計を各分科会において行っている。高校側の次年度年間スケジュール計画と調整しつつ、実施する科目内容や実施内容の具体化を進めている。各分野の方向性は下表の通り。

【高校3年生における各分野の連携授業カリキュラム概要】

	ビジネス (IT) 分野分科会	自動車整備 分野分科会	グローバル 分野分科会	情報技術 分野分科会
想定コマ数	10コマ程度	座学/実習合計 10コマ程度	7コマ程度	10～15コマ程度
授業実施 主体校	県立八重山商工 高校	県立美来工科高 校	県立石川高校	県立中部商業高 校
予定内容	・科目「総合実践」にて連携 ・1.2年生の実施内容の発展版として実施	・自動車整備士の魅力に関する内容で調整中	・科目「総合的な探求の時間」にて連携 ・OB/OGによる講話 ・個人の進路に関するプレゼンテーション	・科目「マーケティング」にて連携予定 ・2年生の連携授業（データ分析）内容の発展版として実施
連携する 専門学校	・専門学校那覇日経ビジネス ・専門学校ITカレッジ沖縄 他	・専修学校パシフィックテクニカレッジ	・専門学校日経ビジネス ・琉美インターナショナルビューティカレッジ ・専門学校ITカレッジ沖縄 ・琉球調理製菓専門学校 他	・専門学校ITカレッジ沖縄 他

第2節 教材開発

第1項 「高校1年生用」モデル教材の開発

今年度は、昨年度および今年度各分科会のもと実施した実証講座において、それぞれの専門学校や企業の担当者が授業で活用するために作成した教材および昨年度開発したキャリア教育教材をもとに、モデル教材の開発を行っている。これは、今後想定される課題である、人事異動などによる関係者等の変更が生じた際にも継続的な連携授業を実施していくことを見据えた開発である。対象となる分野は、「ビジネス（IT）分野」「自動車整備分野」「グローバル分野」の3つである。

1-1 ビジネス分野

ビジネス分野については、昨年度と今年度に連携授業を実施した「ビジネスコミュニケーション」「ビジネスマナー」「さまざまなビジネス」「マーケティング」の4つが開発対象である。

以下に開発したモデル教材の一部を紹介する。

【ビジネス（IT）分野モデル教材の事例】

<p>◆ビジネスマナーの重要性</p> <p>ビジネスマナーは、 社会人ならできて「当たり前」の基本</p> <p>『信頼できる人間である』 ことを示すために必要</p> <p>適切なマナーを守ることで 相手との信頼関係を築く</p> 	<p>◆3つの基本</p> <ol style="list-style-type: none">1. 伝える力 実際に相手に伝えたい情報を整理し、わかりやすく論理的に話を組み立てて伝える2. 聞く力 相手の話を理解し、意図をつかむ能力3. 質問する力 伝える側の話の内容を深掘りでき、聞く側の理解度も深まる 
--	---

1-2 自動車整備分野

自動車整備分野については、昨年度連携授業を実施した「人と自動車」「自動車と安全」「自動車の仕事、仕事の役割」「自動車これから」の4つが開発対象である。以下に開発したモデル教材の一部を紹介する。

【自動車整備分野モデル教材の事例】

15. 駆動輪と駆動方式の違いについて

1. 駆動輪とは

- エンジンで生み出した動力を路面に伝えて動く車輪

2. 駆動方式とは

- エンジンの駆動力をタイヤに伝える駆動方式
- 駆動輪の位置によって

FF FR RR MR 4WD

6. 自動車業界を支える自動車整備士とは

自動車整備士は国家資格

- 自動車の構造や整備に関する知識や技能を持っていることを国が認めた国家資格
- 国内の整備技術を高い水準に保っている

自動車整備士の社会的な役割

自動車の整備を通して、
ヒトの命を守り、
安全な車社会を目指すこと

1-3 グローバル分野

グローバル分野については、昨年度連携授業を実施した「コミュニケーション」「マナー」「表現」の3つが開発対象である。3つについてそれぞれ基礎版と発展版を開発しているため合計6つ開発した。

以下に開発したモデル教材の一部を紹介する。

【グローバル分野モデル教材の事例】

1. 表現とは

表現とは?
心のなかにある心理的、感情的、精神的などの内面的なものを、外面的、感性的形象として客観化すること。

表現

- 言葉
- 身振り/手振り
- 顔の表情
- 声の表情
- 記号
- 造形物
- 色
- 音

2. コミュニケーションの重要性

「選考時に重視する要素」の上位5項目の推移

項目	2001	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
コミュニケーション能力	42.4	44.2	46.0	47.8	49.6	51.4	53.2	55.0	56.8	58.6	60.4	62.2	64.0	65.8	67.6	69.4	71.2	73.0	74.8
日本語能力	48.0	47.0	46.0	45.0	44.0	43.0	42.0	41.0	40.0	39.0	38.0	37.0	36.0	35.0	34.0	33.0	32.0	31.0	30.0
英語能力	45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0	55.0	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0	62.0	63.0
情報処理能力	40.0	41.0	42.0	43.0	44.0	45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0	55.0	56.0	57.0	58.0
読解力	35.0	36.0	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0	42.0	43.0	44.0	45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0	52.0	53.0


注：20項目から5つを選別し、20項目の総得点は60を参照。(平入社発表)

「コミュニケーション能力」が16年連続第1位

第2項 eラーニング教材の追加開発と実装

まず、昨年度動画化を行った職業キャリア教育のeラーニング教材の追加開発である。具体的には、動画教材に関連する問題の作成やワークシートの開発などが挙げられる。また、追加開発後に動画教材を含めて一貫型職業教育プラットフォームに実装した。後述する「(3)一貫型職業教育支援プラットフォームの整備と追加カスタマイズプラットフォームの整備」における【プラットフォーム(eラーニング選択画面)】にて紹介している画面から中央部の選択画面から動画等を確認が可能な仕様とした。

【作成した問題例】

<p>講義教材例 (情報技術分野)</p>	
<p>問題</p>	<p>IT 人材が継続的に行うべきことは何ですか？</p>
<p>選択肢</p>	<p>A. 新しい技術や情報に耳を傾けること B. 古い技術のみを維持すること C. 学習の必要性を無視すること D. 他人の意見を常に無視すること"</p>
<p>正解</p>	<p>A. 新しい技術や情報に耳を傾けること</p>
<p>解説</p>	<p>"A. IT 分野では技術の進歩が速く、社会の変化や動向も激しいため、日々新しい技術や情報に耳を傾け、自身の知識や技術を地道にアップデートし続けることが重要です。これが IT 人材に求められる継続的な学習の姿勢を示しており、正解です。"</p>

	<p>B. 古い技術のみを維持することは、技術進歩の速い IT 分野で適切に対応するためには不十分です。</p> <p>C. 学習の必要性を無視することは、自身のスキルや知識を時代遅れにし、プロフェッショナルとしての成長を妨げます。</p> <p>D. 他人の意見を常に無視することは、コミュニケーション能力やチームワークに欠ける態度であり、柔軟な思考や多角的な視点を得る上で有害です。</p>
--	---

第3節 一貫型職業教育プラットフォームの整備

昨年度カスタマイズした「一貫型職業教育プラットフォーム」を本年度から活用するためにプラットフォームの整備および分野別の分科会からの要請に応じて機能の強化等の追加カスタマイズを行った。具体的には、メインメニューの構成である。昨年度段階では、1年生対象として構築していたため、各学校で科目名を表示していたが、高校3年間活用することを想定し、表示を「科目」にし、それを選択することによって、学年別に科目を選択可能な構成にした。また、開発したコンテンツを視聴可能とするため、eラーニングという項目を追加している。以下にてカスタマイズしたプラットフォームを紹介する。

【プラットフォーム（科目選択画面）】

実施日	テーマ	担当	提出
2023/06/06	チーム&テーマ決め	担当者	
2023/06/13	マナー教育	担当者	
2023/10/11	事前調べ学習	担当者	
2023/10/17	企業訪問	担当者	
2023/10/24	振り返り①	担当者	
2023/11/07	振り返り②	担当者	
2023/11/14	発表会	担当者	

【プラットフォーム（eラーニング選択画面）】

テーマ	視聴日	テスト
1 「私らしくいきる」	23-12-04	23-12-04
2 「日本人としてのアイデンティティ」		
3 「違いを認め合う」		
4 「海外で学ぶということ」	23-10-23	
5 「問題を解決していく能力」		
6 「英語は勉強ではない!？」		
7 「デジタルツールを使いこなそう」		
8 「あなたにとってグローバルに活躍するとは？」		

第4節 開発のまとめ

開発報告では、高等学校生の職業教育とキャリア教育の充実を目指し、カリキュラム設計と教材開発に重点を置いて紹介してきた。

まず、ビジネス(IT)分野、自動車整備士分野、グローバル分野（普通科）、情報技術分野の4つの分野において、高校1年生から3年生までを対象としたカリキュラムの設計を行ってきた。

1年生用のカリキュラムでは、昨年度の実績をもとに具体化を進め、実施しながら設計した。2年生用カリキュラムは、職業人講話や企業訪問を通じて学生のキャリア教育を深める内容を中心に設計している。3年生用については、現在も分科会等を通して、実施内容を検討している段階ではあるが、方針概要をまとめた。

教材開発では、まずビジネス分野、自動車整備分野、グローバル分野を中心に、実際の授業で利用する事を想定した「高校1年生用」モデル教材の開発について記載した。これらは、実証講座での経験や前年度の開発を基に、将来の人事異動などで担当者が変更になった際にも対応できるよう設計されている。

eラーニング教材の追加開発では、昨年度に動画化された職業キャリア教育の教材に関する問題作成などを紹介した。また作成した問題などは、一貫型職業教育プラットフォームに実装された。このプラットフォームは、学習者が選択画面から必要な教材を効率的にアクセスできるよう設計されている。

一貫型職業教育プラットフォームの整備については、昨年度にカスタマイズされたプラットフォームを今年度から活用可能とするために、機能強化や追加カスタマイズを行った。

特に、メインメニューの構成変更により、学年別に科目を選択できるようになったことや、eラーニングメニューから動画教材の視聴を可能とした。

このように、今年度の開発では、職業教育とキャリア教育の質の向上を図るためにカリキュラムの設計と教材開発において多角的なアプローチを行った。

第4章 実証講座

第1節 実証概要

「ビジネス（IT）分野分科会」「自動車整備分野分科会」「グローバル分野分科会」「情報技術分野分科会」における実証講座を実施した。

以下にそれぞれの分野の連携授業の実施概要を示す。

【令和5年度 連携授業概要一覧】

	ビジネス(IT)分科会	自動車整備分科会	グローバル分科会	情報技術分科会
連携主体校および企業	○高等学校： ・沖縄県立八重山商工高校 ○専門学校： ・専門学校那覇日経ビジネス ・専門学校 IT カレッジ沖縄	○高等学校： ・沖縄県立美来工科高校 ○専門学校： ・専修学校パシフィックテクノカレッジ ○企業： ・沖縄トヨタ自動車株式会社	○高等学校： ・沖縄県立石川高校 ○専門学校： ・専門学校日経ビジネス ・琉美インターナショナルビューティカレッジ ・専門学校 IT カレッジ沖縄 ・琉球調理製菓専門学校	○高等学校： ・沖縄県立中部商業高校 ○専門学校： ・専門学校 IT カレッジ沖縄
対象学年	1年生：約 30 名 2年生：約 30 名	1年生：約 40 名 2年生：約 40 名	1年生：約 130 名 2年生：約 110 名	2年生：約 70 名
対象科目	1年生： 「ビジネス基礎」 2年生：	1年生：「実習」 「自動車工学」 2年生：「実習」 「自動車工学」	1年生：「情報 I」 「総合的な探究の時間」	2年生： 「総合実践」

	「ネットワーク活用」		2年生：「総合的な探究の時間」	
連携概要	1年生：コミュニケーション、マナー、職業人講話、フィールドワーク等 2年生：データ分析、卒業生講話、映像制作	1年生：【自動車工学】職業理解 【実習】車の魅力 2年生：【自動車工学】自動車整備士に必要な能力、職業意識 【実習】自動車業界の理解	1年生：キャリア基礎、職業人講話、映像制作 2年生：マナー、企業訪問、プレゼンテーション	2年生：職業人講話（IT系企業）、PBL（課題解決型学習）
連携授業総コマ数	1年生：21コマ 2年生：13コマ	1年生：15コマ 2年生：17コマ	1年生：71コマ 2年生：14コマ	2年生：66コマ

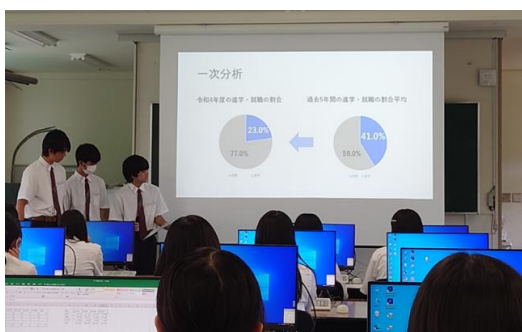
全体として、4分野合計で総授業コマ数 217 であった。参加した生徒数は4校合計で約 450 名に登る。

以下、各分野の実証講座の概要と様子、アンケートの一部を提示する。それぞれテーマで実施したアンケート結果については、後述の付録にて掲載する。

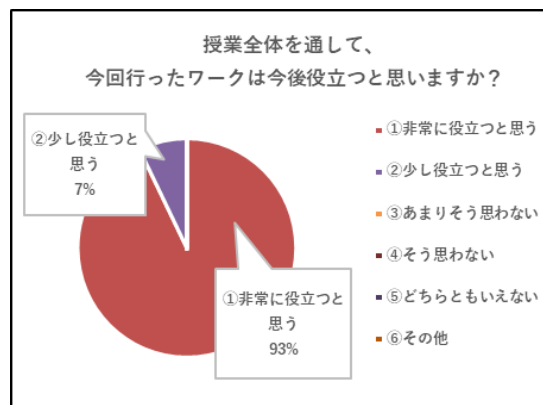
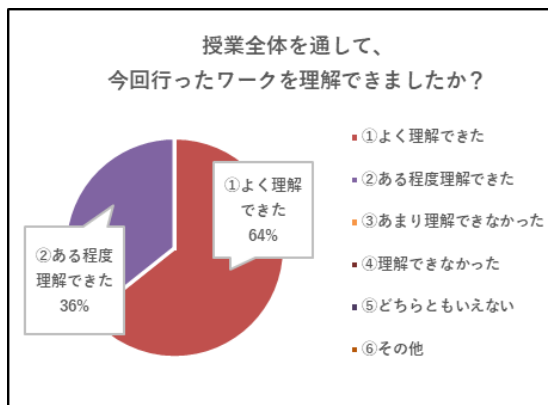
第2節 ビジネス分野

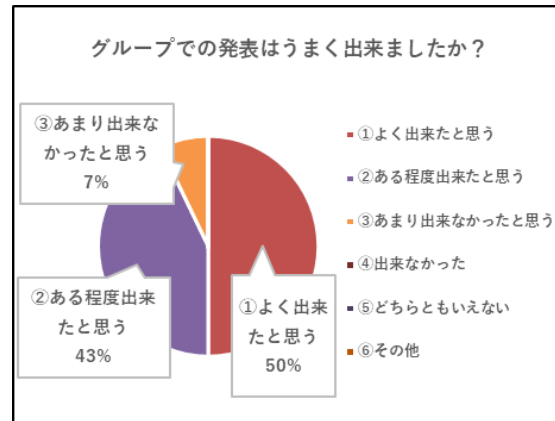
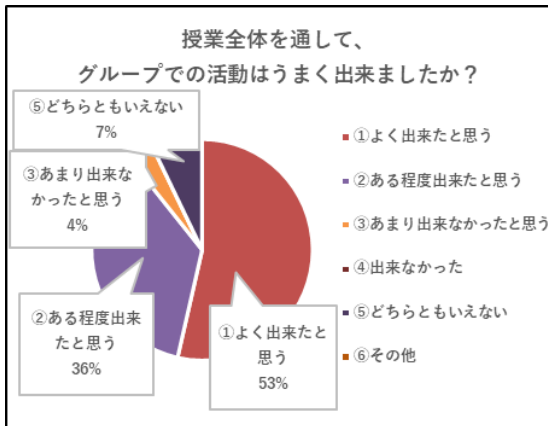
「ビジネス（IT）分野分科会」では、県立八重山商工高等学校の1.2年生を対象として、1年生では昨年度と同様に「ビジネス基礎」にて実施した。2年生は「ソフトウェア活用」で実施した。専門学校は主に専門学校那覇日経ビジネスと専門学校ITカレッジ沖縄が担当している。

【連携授業の様子 上：1年生 下：2年生】



【2年生：表計算ソフトウェアの活用 最終回授業後アンケート結果】





授業全体を通して、質問や感想など（一部抜粋）

○もう一度同じような授業をやりたいと感じた。もしまた同じような機会があればより一層上手に発表できるようがんばりたいと感じました。

○いつもは表や何を求めるのかが分かっている問題を解くだけなので、いままでしたことないことをして焦ったりちゃんとした答えがでてるのか不安なったりして大変だったけど、最後には分析結果を出すことができるまでできたのでよかった。

○10回の授業を通して最初は自分達には無理だなと思っていたけど、分析していくとわかることがたくさんあってそれをグループの人と共有できたのでよかったです。発表では声が結構出せていてパワーポイントにもうまくまとめることができていたのでよかったなと思いました。

ビジネス分野の2年生においては、グループワークで卒業生たちの進路選択に関するデータ分析を行う授業であった。授業全体の理解度については6割以上が「よく理解できた」、役立つかどうかについては9割以上が「非常に役立つと思う」という回答であり、内容が充実していたことがうかがえる結果となった。

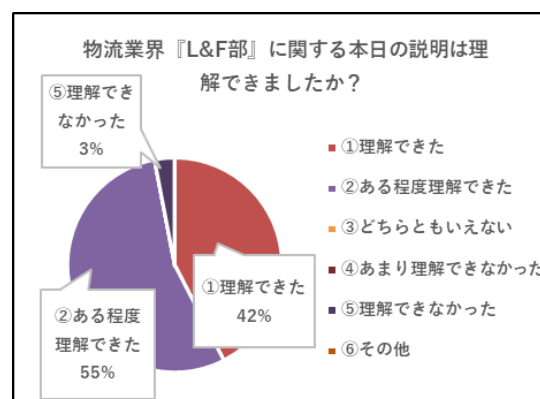
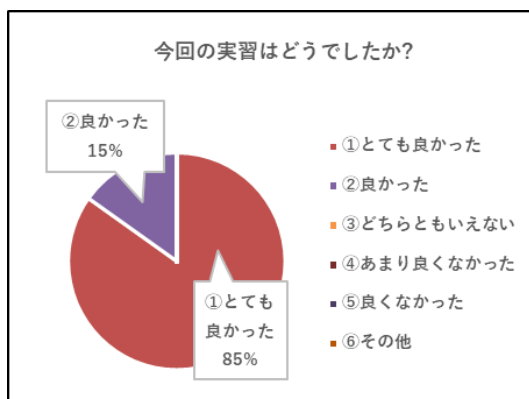
第3節 自動車整備分野

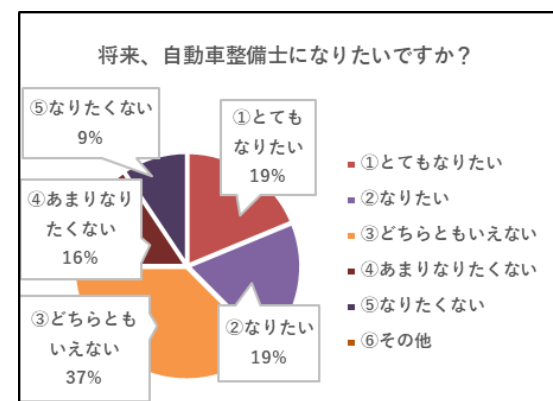
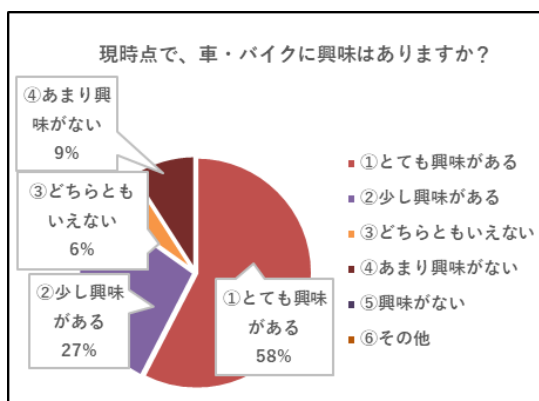
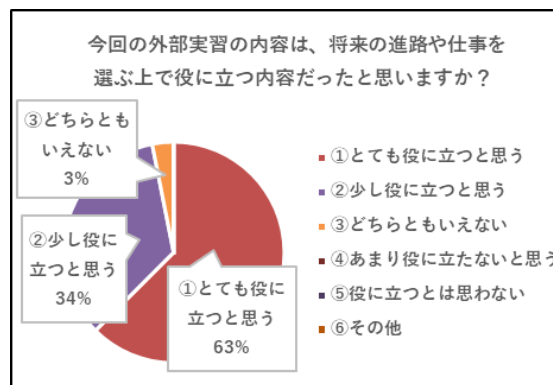
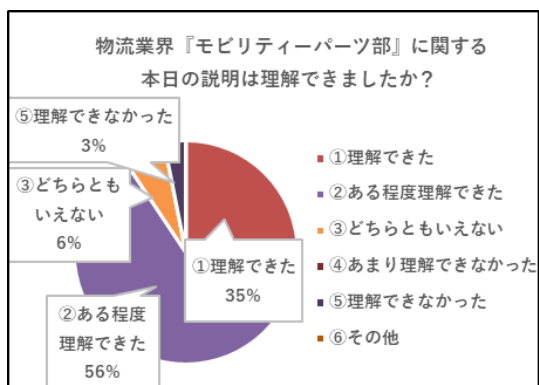
「自動車整備分野分科会」では、県立美来工科高等学校の1.2年生を対象として、「自動車工学」や「実習」の科目において実施した。「実習」においては、主に専修学校パシフィックテクノカレッジと沖縄トヨタ自動車株式会社が連携しながら支援し、「自動車工学」では専修学校パシフィックテクノカレッジが担当している。

【連携授業の様子 上：1年生 下：2年生】



【2年生：実習『L&F部』『モビリティパーツ部』授業後アンケート結果】





授業全体を通して、質問や感想など（一部抜粋）

○車体だけでなく、オイルや小さいネジにもトヨタが関わっていることがわかりました。整備士しか見ていませんでしたが、今回の実習で進路の幅が広がったと思います。

○それぞれの働く人の気持ちを考えて部品を配置をしていることがわかったし、それぞれが理解し合って仕事をしているんだと思いました。もっと車やバイクについて深く知ってみたいです。

○今回はいろんな体験を通して、トヨタの職場のことについてわかりました。例えば、フォークリフトの汎用性など体験などを通してわかったのでとても良かったです。

自動車整備分野における2年生の実習『L&F部』『モビリティパーツ部』では、沖縄トヨタ自動車株式会社の『L&F部』『モビリティパーツ部』それぞれの事業所に見学を訪れ、業務についての講話や体験を行った。アンケート結果から満足度が高かったことがうかがえる。また、実習内容についても9割以上が将来の進路や仕事を選ぶ上で役に立つ内容だったと回答しており、効果的な内容であったことがうかがえる。

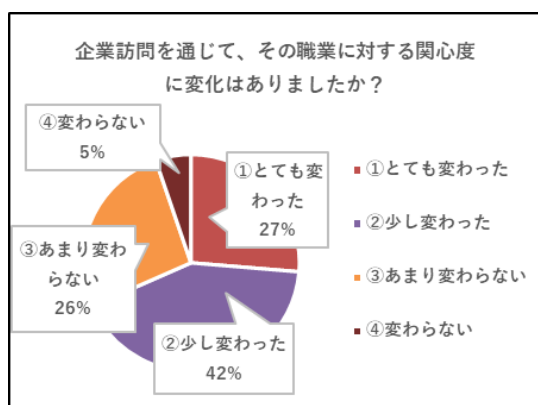
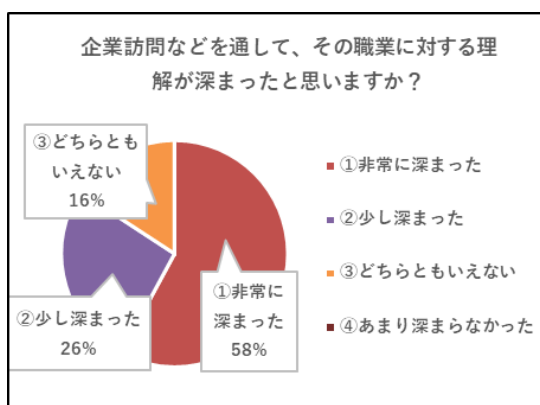
第4節 グローバル分野

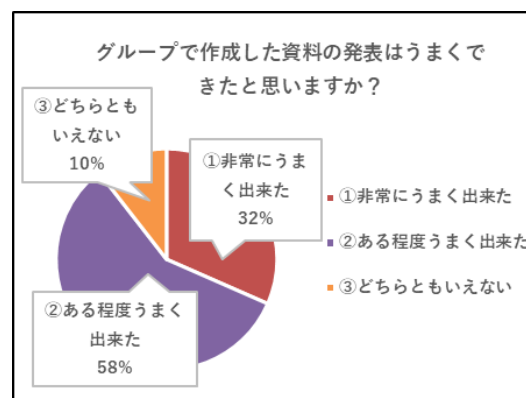
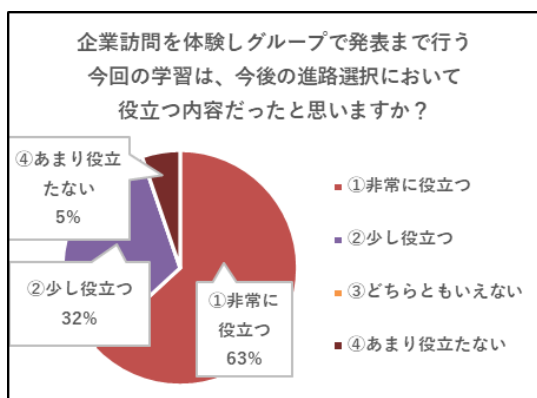
「グローバル分野分科会」では、県立石川高等学校の1.2年生を対象として、「情報Ⅰ」および「総合的な探究の時間」の科目内で連携している。連携する専門学校は、主に専門学校日経ビジネス、琉美インターナショナルビューティカレッジ、専門学校ITカレッジ沖縄、琉球調理製菓専門学校などが協力しながら支援している。

【連携授業の様子 上：1年生 下：2年生】



【2年生：プレゼンテーション後の学習全体に対する授業後アンケート結果】





授業全体を通して、質問や感想など（一部抜粋）

○グループみんなで企業訪問の時から話し合って学び合いました。また発表の時にはみんなの意見を通して多様な意見を用いることができました。いろいろな仕事内容や項目について知れて将来の役に立ったなと思います

○企業訪問するにあたって、事前にその場所について調べ、質問を考えておくことが大切だと学んだ。また、実際に裏にまわることで、その職業をやっている人にしかわからないことが知れて、いい経験だった。

○テーブルマナー、必要な免許、など様々な事を学ぶことが出来ました。氷細工を見ることができましたが、とても綺麗で凄い技術だと感心しました。発表は予想してなかった質問がきて返すのに時間がかかりましたが、良い経験が出来ました。

グローバル分野においては、2年生にて関心分野別に企業訪問を行い、職業理解の深化をテーマとしてグループワークでプレゼンテーションまでの流れを実施した。全体を通してのアンケート結果として、8割以上の生徒が職業について理解が深まったという結果であった。また、進路選択に役立つかどうかについては、9割以上が役立つという回答結果であり、企業訪問の効果を確認することができた。

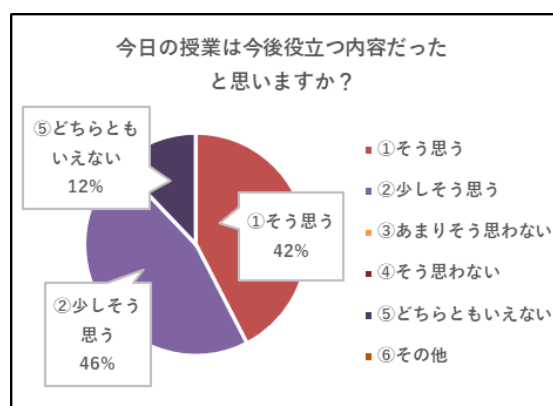
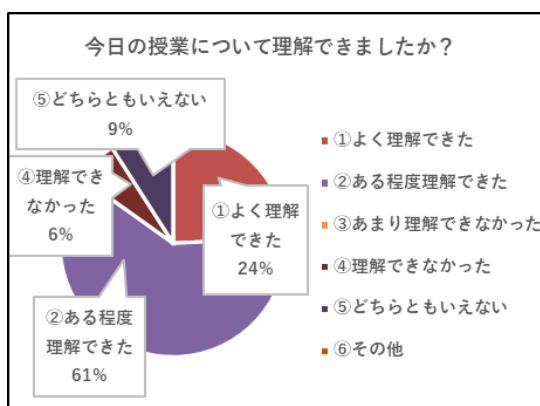
第5節 情報技術分野

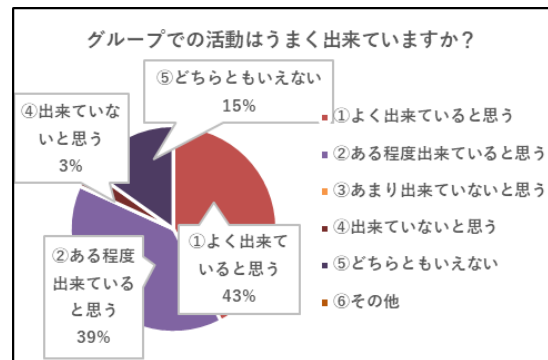
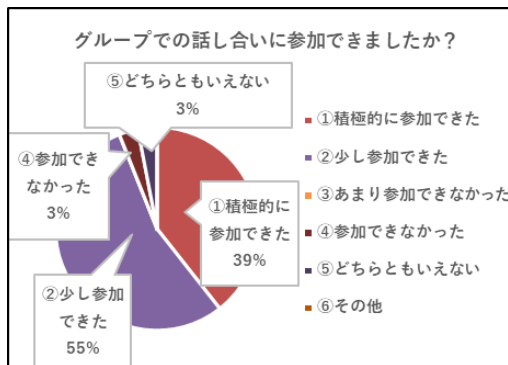
「情報技術分野分科会」では、県立中部商業高校の2年生を対象として、「総合実践」のなかで連携授業を実施している。連携する専門学校は主に、専門学校 IT カレッジ沖縄である。

【連携授業の様子】



【2年生：データ分析 1 回目授業後アンケート結果】





授業全体を通して、質問や感想など（一部抜粋）

○データ収集のやり方について詳しく知ることができたのでとてもよかったです。

○グループみんなで話し合って解決策を求め考えることができた。

○アンケートを作るのは、簡単と思ったけど、対象者を変えると難しいなと感じた。また、どんな質問をしたら、答えやすいかなとかも考えないとなった。

情報技術分野については、9月～1月の発表会までグループワークでデータ分析に関する連携授業を行った。1回目では、どのようにデータを収集するのかについて、専門学校 IT カレッジ沖縄の教員が授業を行った。理解度については、8割以上が理解できたと回答、役立つ内容かどうかについても同様に8割以上という結果であった。最終回では学年全員が集合し、発表会を行った。

第6節 プレ実証

ビジネス分野における2年生を対象として、2コマ実施した。実施内容については、前述の「②高等学校2年生用カリキュラム」にて紹介した【「ビジネス分野」における連携授業カリキュラム】内の③映像制作である。

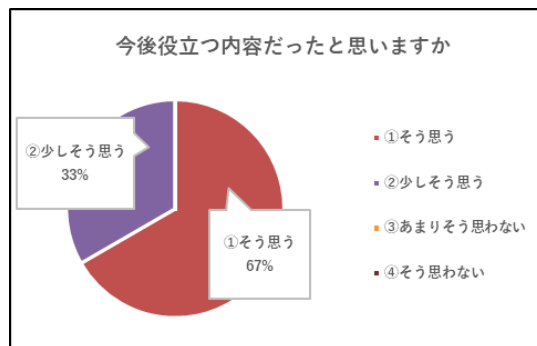
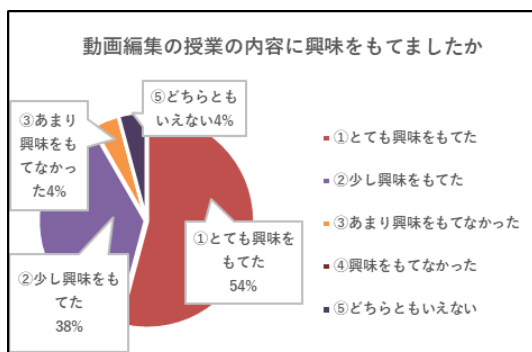
これは、分科会での協議や実証講座の実績から、高校教員側からの追加提案であった。次年度に3年生対象として映像制作に関する連携授業を実施する想定から、映像制作に係る基礎的な知識やその手順、操作方法に関する講座を実施することが望ましいということであった。本プレ実証では、専門学校ITカレッジ沖縄の教員が担当し、2コマ連続で映像制作に関する講義、生徒自身による映像撮影、映像編集という流れで実施した。

以下がその時の様子である。

【連携授業の様子】



【プレ実証アンケート結果】



第7節 実証講座のまとめ

今年度の実証講座では、ビジネス（IT）、自動車整備、グローバル、情報技術の各分野において、県立高校の1年生と2年生を対象に授業を実施した。

これらの講座は、専門学校や企業との連携により、生徒たちに連携授業や職業人講話、現場見学・体験などでの実践的な学習機会を提供してきた。

ビジネス（IT）分野では、県立八重山商工高等学校の生徒を対象に「ビジネス基礎」や「ソフトウェア活用」の授業を通じて、実践的なコミュニケーションやマナー、データ分析を行ってきた。職業人講話では、島内で活躍する方を中心に招聘し、2年生の専門学校生講話では八重山商工高校卒業生で現在専門学校に在籍している学生の協力を得た。

自動車整備分野では、県立美来工科高等学校にて、座学と実習の時間を活用して、専修学校パシフィックテクノカレッジと沖縄トヨタ自動車株式会社の支援を受けながら、知識の習得と現場見学・体験を経験した。

グローバル分野では、県立石川高等学校にて、1年生は職業理解をテーマに様々な分野の職業人講話を受けるなどを行った。2年生は関心を持った分野の企業に訪問し、理解度を深化し、学習したことを発表した。

情報技術分野では県立中部商業高校の生徒が「総合実践」の授業で職業人講話や身近な学校における課題についてアンケート集計から開始する課題解決型学習(PBL)を実施し、Excelの活用や実践的な学びを実施した。

また、次年度の実証講座に先駆けてプレ実証をビジネス分野で行った。映像制作に関する基礎知識や技術がテーマであった。これは、次年度の3年生における映像制作に関する授業を展開するための基礎を築くことを目的としている。

実証講座の検証では、生徒からのアンケートなどを通じて、授業の効果を評価した。各分野で実施された授業は、生徒たちからは理解が深まり、将来の進路選択に役立つという結果が得られた。

特に、実践的な体験に関する連携授業においてはその経験を通じて、生徒たちの興味や関心を喚起し、職業理解を深めることができたことが強調された。

全体を通して、今年度の実証講座は生徒たちの学びに対するモチベーションを高め、将来に向けて役立つ知識とスキルを提供できていたといえる。

第5章 教員研修

第1節 教員研修の実施

昨年度開発した教員研修用教材を活用しての教員研修を、新型コロナウイルスの状況を踏まえた開催形式にも対応するため、動画を視聴する形式で実施した。また、高校の教職員同士で実施している研修等の充実化を目的として、高校の求めに応じた研修等の実施に対する支援という形での実施については、分科会や個別での協議などから次年度以降で実施を想定している。

以下に、視聴後のアンケート結果の一部を紹介する。

【プレ実証アンケート結果の一部】

質問	今後、高校教員、専門学校教員、企業と意見交換する機会がある場合、どのような議題やテーマが有意義だと思われますか。
回答	<p>【専門学校】</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリア教育の考え方と高専連携のあり方・高専連携の目指す人財育成 <p>【企業・団体】</p> <p>・対教員で言えば、やはり「現在の学生が何に興味を持ち、モチベーションを持ち、学ぼうとする姿勢が持てるか」を掘り下げる議論がしたい。大人が思う「良いこと」「考え方」「働き方」を落とす、下すだけでは効果は限定的な気がする。その掘り下げを異業種含め、幅広い年代層ですべきかと感じます。</p> <ul style="list-style-type: none">・業界だけでなく、「職種」の観点で検討するのもよい。例えば広報、経理、マーケティングといった職種は、業界関係なくある職業である。色々なキャリアを見せることが学生にとって参考になると思う。

第2節 追加開発

研修としての動画視聴実施後に、高校教員などからのフィードバックや次年度の連携授業に向けての意見などを個別協議や分科会などで協議した。そのうえで、教員研修教材の追加開発を行った。

具体的には、次年度における連携授業で活用を想定している高校1年生用のモデル教材について、教員が容易に授業で活用可能な形式とすることである。PowerPointのノート部分にスライドの説明や参考となるURLなどの情報を追記した。

以下がモデル教材のPowerPointスライドとノート部分の例である。

【追加開発した教材の一部】

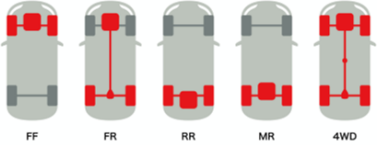
15. 駆動輪と駆動方式の違いについて

1. 駆動輪とは

- エンジンで生み出した動力を路面に伝えて動く車輪

2. 駆動方式とは

- エンジンの駆動力をタイヤに伝える駆動方式
- 駆動輪の位置によって



次に、自動車の仕組みについて学びましょう。

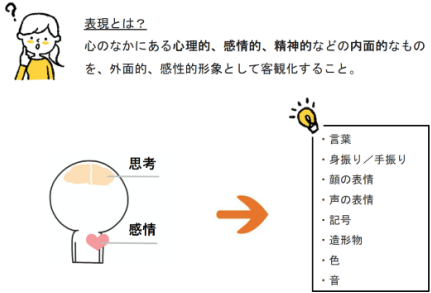
駆動輪とは、エンジンで生み出した動力を路面に伝えて動く車輪で、駆動方式とは「エンジンの位置」と「どのタイヤにエンジンの力が伝わって動いているか」を表わす方式です。4輪それぞれに動力が伝えられる4輪駆動(4WD)と、2輪が駆動する2輪駆動(2WD)があります。さらに、2輪駆動には、前輪が駆動する(FWD)と後輪が駆動する(RWD)があります。よく耳にするFF方式やFR方式とは、この駆動輪と、エンジンの位置をまとめて表現したものです。

駆動方式は、駆動方式の違いは自動車の性能や運転時のフィーリングに大きく直結する部分となっている重要な要素です。駆動方式ごとにメリット、デメリットがありますが、用途に合わせて選ぶことができれば、カーライフが一層楽しくなるでしょう。

●参考文献
 ・トヨタ自動車WEB サイト
 参考URL【<https://toyota.jp/detail/17797987>】
 ・「クルマの駆動方式って何？」国土交通省長岡国道事務所
 参考URL【<https://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/99/125/127/156/>】

○学生への問いかけ例
 ・5つの駆動方式のうち、3つが主流となっていますが、どの3つか分かりますか。

1. 表現とは



表現とは？
 心のなかにある心理的、感情的、精神的などの内面的なものを、外面的、感性的形象として客観化すること。

- 言葉
- 身振り／手振り
- 顔の表情
- 声の表情
- 記号
- 造形物
- 色
- 音

表現とは、心理的、感情的、精神的などの内面的なものを、外面的、感性的形象として客観化すること、また、その客観的形象としての、表情・身振り・言語・記号・造形物などです。

また、自身の表現を「客観化する」ということも、重要です。他自分では自分の「内面世界」を出しているつもりでも、それが他者に見えず、伝わっていないこともありますので、他者が何らかの形で分かるようにすることが表現だと考えられます。

●参考文献
 ・福原美苗「『私』を表現すること」
 参考URL【http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/seminar%20materials/inahara_jp_doc.pdf】
 ・「文部科学省教科調査官が語る！【『思考力・表現力』徹底解説！】2なぜ、今、『思考力・表現力』か」Vプレス12号
 参考URL
 【<https://www.kobun.co.jp/Portals/0/resource/dataroom/magazine/dl/vpress12.pdf>】

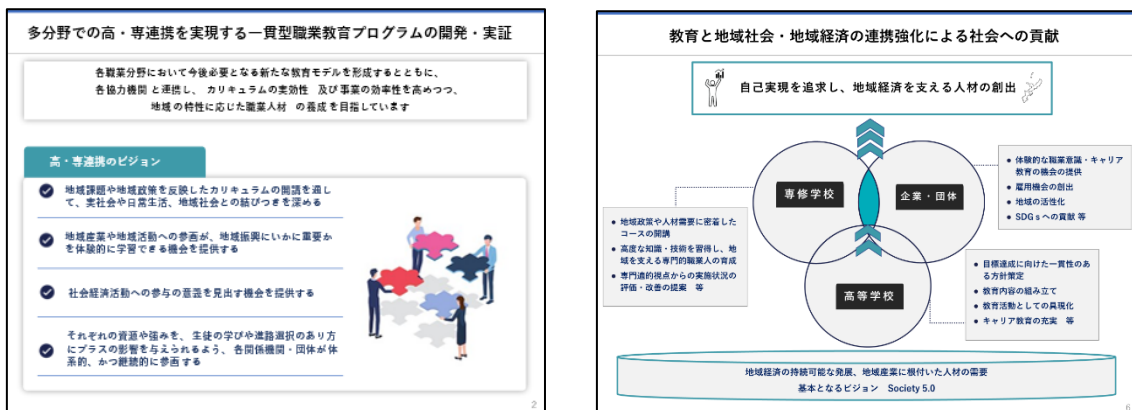
○生徒への問いかけ例
 ・表現することが、得意だと思えますか。
 ・普段、表現をしている方だと思いますか。

第3節 教員用ガイドのプロトタイプ版

事業終了後にも、高等学校が継続的に専門学校や企業、団体とより有意義な連携体制を構築し、効果的なキャリア教育を実施していくために必要となる情報やノウハウなどをまとめた教員用ガイドのプロトタイプ版の開発を行う予定である。

ガイドの内容としては、年間を通して連携授業を実施するためのスケジュールや連携授業、職業人講話を実施までの流れなどが挙げられる。また、これまでの継続的な協議から得られている知見等を記載する予定である。以下に、開発途中のガイドのイメージを提示する。年度内において、プロトタイプ版を開発し、次年度に評価を行い、追加開発を行う予定である。

【教員用ガイド（プロトタイプ版）のイメージ】



第6章 今年度における活動項目のまとめ

以下に今年度の取り組みの要点を列挙する。

1、実施委員会・分科会の開催

- ・実施委員会は、予定通り3回開催し事業全体の方針などを協議した。
- ・分科会については、主に専門学校や高等学校の教員を中心として、今年度の授業内容や来年度の授業計画焦点を当てて協議を事業期間外も含め、都合23回開催した。3月以降の事業期間外でも4月以降の連携授業の具体化について継続的に議論することを予定している。

2、一貫型職業教育プログラムの開発

(1) カリキュラム設計：

- ・高校1年生～3年生向けのカリキュラム設計について、4つの分野で実施。
- ・高校1年生：昨年度の実績をベースとして、追加や修正をしながら設計。
- ・高校2年生：昨年度後半で協議したカリキュラムを実施しながら設計。
- ・高校3年生：今年度後期から協議を開始。年度内にかけて分科会で調整。

(2) 教材開発：

①「高校1年生用」モデル教材の開発

- ・継続的な連携授業を実施していくことを見据え、高校1年生用の3つの分野（ビジネス（IT分野）、自動車整備分野、グローバル分野）を対象として開発した。

②eラーニング教材の追加開発と実装

- ・昨年度開発した動画教材の追加開発として、問題ワークシートの作成。
- ・開発したコンテンツの一貫型職業教育プラットフォームへの実装。

③一貫型職業教育支援プラットフォームの整備と追加カスタマイズ：

- ・昨年度にカスタマイズされたプラットフォームを活用し、本年度グローバル分野にて試用。
- ・プラットフォームの整備や分野別の要請に応じた機能の強化やカスタマイズを実施。

- ・メインメニュー構成の改良
 - 科目の選択を各校および学年別に可能。
 - e ラーニングコンテンツも視聴可能なメニューの追加。

3. 実証講座の実施

①実施講座の実施：

- ・「ビジネス（IT）分野分科会」では県立八重山商工高等学校の1.2年生を対象に、「ビジネス基礎」と「ソフトウェア活用」において実施。
- ・「自動車整備分野分科会」では県立美来工科高等学校の1.2年生を対象に、「自動車工学」と「実習」を実施。
- ・「グローバル分野分科会」では県立石川高等学校の1.2年生を対象に、「情報Ⅰ」と「総合的な探究の時間」内で実施。
- ・「情報技術分野分科会」では県立中部商業高校の2年生を対象に、「総合実践」の中で連携授業を実施。

②プレ実証の検討・実施：

- ・分科会などでの協議の結果、ビジネス分野にて、高校2年生を対象に次年度実施予定の連携授業に係る前段的な内容を2コマ実施。
専門学校ITカレッジ沖縄の教員が担当。

③検証：

- ・実証講座後のアンケートやヒアリングなどの方法を使用して検証。
- ・各分野で実施された授業は、生徒たちからは理解が深まり、将来の進路選択に役立つという結果が得られた。
- ・特に、実践的な体験に関する連携授業においてはその経験を通じて、生徒たちの興味や関心を喚起し、職業理解を深めることができた。

4. 教員研修

①教員研修の実施および教材の追加開発：

- ・昨年度開発された教員研修用教材を活用して動画視聴形式で実施。
- ・研修後、教員からのフィードバックや個別協議などを受けて、追加開発として次年度活用予定の高校 1 年生用モデル教材について高校教員が活用する際のガイドに相当する内容について開発。

②教員用ガイドのプロトタイプ開発：

- ・今年度版のプロトタイプを開発した。次年度に委員などから評価を受け追加開発予定。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会が実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証
多分野での高・専連携を実現する一貫型職業教育プログラムの開発・実証

成果報告書

発行者：一般社団法人 沖縄専門人材開発研究会

発行：2024年3月